

平成27年度実施事業調査シート

■ 基本事項(事業の位置づけ)

No. 1	項目名	シティセールス推進費			主要な施策の 成果 ページ	13	担当 部署	総合政策部 企画調整課
予算科目	会計	1	一般会計		総合計画 体系	分野	市民文化	
	款	2	総務費			基本方針	市民文化の醸成	
	項	1	総務管理費			施策	“ふるさと草津の心(シビックプライド)”の醸成	
	目	5	企画費			当初予算における区分	新規施策・ 拡大施策 ・重点施策・その他	
事務事業	85	シティセールス推進費			↑該当するものを○で囲んでください			

■ 事業概要(実施内容)

事業の背景	(事業開始の背景は？実施に至った経緯は？) 少子高齢化社会の到来による人口減少の進展が予測され、それに伴う様々な影響から、地方自治体が弱体化していくことが危惧されている。本市は、依然人口増加を続けているが、将来の人口減少を見据えた取組を進める必要がある。そのためには、住民・事業所が活発に活動するとともに、都市の魅力充実させ、市内外へ積極的に発信することで、ひと・もの・情報等を継続的に呼び込み、地域を活性化させていくことが必要である。
事業の対象	(事業の対象、範囲となる人や物は何なのか？) 市民、市外居住の国民、外国人、各企業等
事業の目的	(この事業によって対象をどのような状態にしたいのか？) 「出会いが織りなすふるさと“元気”と“うるおい”のあるまち草津」を将来に描くまちの姿とし、草津市民であることの誇りや愛着である「ふるさと草津の心(シビックプライド)」の醸成を目指す。
事業の内容(取り組み)	(どういった仕事の内容を、どのような手法・やり方で実施したのか？) 平成27年度はこれまでの取り組みを継続するとともに、「くさつ魅力発信塾」では、対象を小学生としたキッズシネマ塾を開催し、「草津市とシネマ」をテーマに草津市の魅力を多くの人に伝えるための映画を制作した。また、たび丸を延べ123日派遣し、積極的なPR活動を行い、ふるさと寄附に関しては特産品数や高額寄附の特産品を追加して寄附単価の増加を図り、さらにイナズマロックフェスティバルの前哨イベントへの支援も行った。

■ 予算・決算状況

	当初予算の状況					決算の状況・実績				
内訳・詳細	○くさつ魅力発信塾 1,000千円(委託料) ○KUSATSU BOOSTERS活動費 3,000千円(報償費、手数料) ○たび丸PR活動費 5,115千円(委託料) ○ふるさと寄附 46,674千円(報償費、広告料、手数料、委託料、使用料) ○イナズマフードグランプリ 3,000千円(補助金) ○その他事務費 2,304千円(報償費、旅費、消耗品費、食糧費、印刷製本費、通信運搬費、広告料、手数料、委託料、使用料)					○くさつ魅力発信塾 900千円(委託料) ○KUSATSU BOOSTERS活動費 306千円(報償費、手数料) ○たび丸PR活動費 5,660千円(委託料) ○ふるさと寄附 36,063千円 (共済費、賃金、報償費、消耗品費、印刷製本費、通信運搬費、広告料、手数料、委託料、使用料) ○イナズマフードグランプリ 3,000千円(補助金) ○その他事務費 1,999千円(報償費、旅費、消耗品費、食糧費、印刷製本費、通信運搬費、広告料、手数料、委託料、使用料)				
事業費(千円)	合計	国県	市債	その他	一般財源	合計	国県	市債	その他	一般財源
予算・決算額	61,093			1,251	59,842	47,928	1,000		1,251	45,677
前年度比	327.1%					111.5%				
◆「当初予算額」と「決算額」の増減理由(事業の進捗状況等)	KUSATSU BOOSTERSの活動頻度およびふるさと寄附金額が下回ったことから報償費の減となった。 一方、たび丸PR活動費の増加は、派遣依頼の件数の増加によるもので流用して対応した。									
◆平成26年度事業費(千円)	合計	国県	市債	その他	一般財源	合計	国県	市債	その他	一般財源
	18,677				18,677	42,966				42,966

■ 事業所管部署による評価

	評価	項目	評価の理由・評価に関する説明
必要性	3	市民ニーズが高い	魅力ある草津市をイメージ付けることが、将来的に草津市の発展につながる。
	2	市の他の政策よりも優先的に実施すべきである	
	4	対象および内容が類似する事業がない	
妥当性	1	法令により実施することが義務付けられている	シティセールスの考え方にに基づき実施され、今後の発展のために行う事業の一環であり、基本的生活の維持や法令で定められた義務として実施するものではない。
	1	法令に定められた市の責務を具現化して実施する事業である	
	4	上位計画に明確に事業が位置づけられている	
	4	国・県・民間の類似サービスと重複していない	
	1	市民の基本的生活の維持・確保に必要な事業、または内部事務である	
効率性	3	他の手法に比べて効率のよい事業手法である	シティセールスの特異性から民間的な手法や手段を活用していくことが多いため、コストは変動的である。またそれらは、受益者の主体たる市民全体に関わることであり、受益者の負担で賄うべきではない。
	2	コスト削減の余地はない	
	3	受益者一人当たりのコストは適正である	
	3	受益者負担や補助の割合に問題はない	
継続性	4	事業を継続することで、さらなる効果が見込まれる	継続的に取り組むことで、シビック・プライドが高まるとともに、さらにひと・もの・情報を呼び込み、良い循環につながる。
	3	所期の目的を達成しておらず、引き続き実施する必要がある	
	3	社会状況の変化に対応した事業内容である	
成果	3	当該年度の事業目的を達成できた	3年間事業を進めてきたところであり、今後の継続要否や展開方法等について見直しを予定している。
	3	受益者の評価が得られている	
	3	費用対効果が大きい	

↑ 次の4段階により該当する数値を記入してください。

(4.よく当てはまる。 3.およそ当てはまる。 2.あまり当てはまらない。 1.ほとんど当てはまらない。)

■ 事業実施効果および課題、将来展望

事業実施効果	<p>○くさつ魅力発信塾・・・塾生の対象者を小学生とし、歴史を学び、草津市の魅力の発信に繋げることを目的に映画を制作し、子供たちの手で草津宿本陣の魅力を見つけ出し、その魅力を伝えることができた。</p> <p>○たび丸PR活動・・・草津市公認マスコットキャラクターとして各種イベントに参加、効果音を付けるなど、キャラクターとして新たな展開を行い認知度を高めた。</p> <p>○ふるさと寄附・・・ふるさと寄附を通じて全国(特に東京・大阪・神奈川)に「草津市と特産品」を情報発信できた。</p> <p>○イナズマロックフェスティバル前哨イベント「イナズマフードグランプリ」・・・本番につながる地域密着型のイベントとして開催し、本市の知名度アップにつなげた。</p>					
事業に対する市民の意見、反応	<p>たび丸派遣やふるさと寄附制度を通じて、継続的な展開をしていくことで、本市のシティセールス活動が徐々に認知され定着してきている。</p> <p>シティセールス活動について、他市議会から視察に来られる等、外部からの注目度が高い状況でもあり、継続していくことによって市民のシビック・プライドにつながっていくことが期待できる。</p>					
事業の今後の課題、将来展望	<p>草津市のイメージを定着させるため、長期的な取り組みを含め本格的にシティセールスの取り組みを進め、具体的な事業展開を行う。シティセールスの推進にあたっては、基本プランで定めた都市イメージのテーマ「“出会い”があるまち・草津」のイメージ基盤を確立するために、これまでの取り組みを見直し、評価しながら、各事業においてテーマに沿ったイメージ戦略の展開を意識し、効果的な手法や情報発信を行う。</p>					
※平成28年度の予算措置	予算額(千円)	合計	国県	市債	その他	一般財源
		67,992	5,000		2,605	60,387
	27年度比	111.3%				
	積算根拠	<p>○KUSATSU BOOSTERS活動費 1,500千円(報償費、手数料)</p> <p>○たび丸PR活動費 5,600千円(委託料)</p> <p>○ふるさと寄附 46,533千円(共済費、賃金、報償費、旅費、消耗品費、印刷製本費、通信運搬費、広告料、手数料、委託料、使用料)</p> <p>○出会い交流促進事業 5,000千円(委託料、手数料)</p> <p>○イナズマフードグランプリ 3,000千円(補助金)</p> <p>○その他事務費 6,359千円(共済費、賃金、報償費、旅費、消耗品費、食糧費、印刷製本費、通信運搬費、手数料、委託料、使用料)</p>				

※ 当該事業が平成27年度に終了した場合は、当該事業に代わって措置した予算や関連予算を記載してください。